
彼は英雄になる。 ~ Hentai ~

美希マコト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼は英雄になる。 \ H e n t a i \

【Nコード】

N 6 2 0 5 V

【作者名】

美希マコト

【あらすじ】

温泉旅行の帰り道、私と彼は変態に遭遇した。

「へ、へへへ変態がいるわ!!」

「編隊??」

「どんな間違えよ!!変態よ変態!!!!」

「あゝ、蛹が蝶になる姿のことか」

「んん、確かにそういう意味もあるけど……ってそんなボケいいから前を見なさいよ!!」

「あれは……変態だ、確かに変態だ」

「そ、そつよね。やっぱり変態よね」

温泉旅行の帰り道、私たちは路上で変態に遭遇しました。

「どうするよ……ちよつとその変で路駐して観察してみるか？」

「え、ええ!!相手は変態なのよ、何しでかすか分からないわ!!」

私たちはその辺りを車で行ったり来たりしながら15分協議したあげく、変態の観察を始めました。

「どう、変態に動きはあった？」

私は近くのコンビニであんぱんと牛乳を買ってきました。

「いや、まだ変態に変わった動きはない」

空気が張り詰めていました。物音一つしない状況に、私の鼓動や唾を飲み込む音がとても大きく聞こえました。

「まずい！！変態が動き出したぞ！！」

彼の声と同時に、変態が動き始めたのです。

「ひい——変態だわ」

私は変態のあまりの変態さ具合に腰を抜かしてしまいました。

「安心しろ、変態はちよつと寝返りを打っただけだ、こっちに気づいて様子はない」

ほっとした。安心した。寿命が延びた。

「そろそろ、あぶないんじゃない??後は警察か自衛隊に任せましよう?」

私は少し怖くなって彼に提案しました。

「いや、きっと警察は民事不介入とか言っで相手にしてくれないぜ

……」

「そ、そんなあ！！でも、相手は変態なのよ！！」

「俺が——」

「ダメよ！！！！」

彼の言葉を遮り私は拒絶した。責任感の強い彼はきつとあの変態を退治しようと考えているに違いない、でもそれは危険すぎる……彼を失う可能性がある。変態に勝てるわけがないのだ。

「でも、このままじゃ……あの変態が都に進行したらどうするんだ！？」

「そ、それは……」

私は反論することができなかった。

「そうなってからじゃ遅いんだ、今ここで変態を殺るべきだと思うんだ」

「でも……危ないよ」

「大丈夫、俺は死なないさ」

彼は運転席から降りようとドアを開け——ようとしたがロックをかけていて開かなかった、ダサかった。

「大丈夫、俺は死なないさ」

全く同じセリフをつぶやいた彼が今度こそ外界に足を踏み出していった。

「待って！！」

私は居ても立ってもいられなくなり、彼の元へ走った——言い残したことがある。

「これを、持って行って……」

「いいのかよ、これお前が大事に——！！」

もう言葉はいらなかった、私は彼の口を唇で塞いで、ちゃんと人

差し指を彼の唇に持っていていき「だあゝめッ」みたいな事をした。

「サンキューな……俺は絶対ここに帰ってくるから」

「うん……待ってるよ」

彼の背中を見つめていると、涙が溢れた。

——彼は変態に立ち向かって行っ

た。
それから、12年の月日が流れた。

私は今でも彼を待ちづけている。

きつと何処かで元気にやっていると信じている。

海沿いを歩く私の足に何かがコツンとぶつかった。

ボトルメールのようだ……興味本位で栓を開け、手紙を取り出した。
た。

「これを読んでいるということは、お前は元気でやっているのだろう。俺はあの日、見事に変態を倒したんだ、お前にも見せてやりたかったぜ俺の雄姿つてやつを……でも、どうにもならないみたいだ。かすり傷だと思ってたんだが、ちよつと傷が深いみたいだ。でも、安心しろ！！俺は何処かでお前のことを見守ってるよ……ごめんな。」

PS・これ、返しとくぜ。

手紙が涙で濡れていた、それは私の涙だった。

手紙にはあの時私が彼に渡したコンビニの100円以上の商品が

どれでも1つ30円引きになるレシートが挟まっていた。

涙は止まらなかったが、私は誇らしい気分だった。

だって——私の彼はたった一人で“あの”変態を倒したのだから……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6205v/>

彼は英雄になる。 ~ Hentai ~

2011年10月8日23時29分発行